

夏目漱石

戦争からきた
行き違い



戦争からきた行き違い

十一日の夜床に着いてからまもなく電話口へ呼び出されて、ケーベル先生が出発を見合みあわすようになったという報知を受けた。しかしその時はもう「告別の辞」を社へ送ってしまったあとなので私わたしはどうするわけにもいかなかった。先生がまだ横浜のロシアの総領事の許もとに泊っていた、日本にほんを去ることのできないのは、まったく今度の戦争のためと思われる。したがって私にこの正誤を書かせるのもその戦争である。つまり戦争が正直な二人ふたりを嘘吐うそつきにしたのだと言わなければならぬ。

しかし先生の告別の辞は十二日に立つと立たないで

変わるわけもなし、私のそれに付け加えた蛇足だそくな文句も、先生の去留によつてその価値に狂いが出てくるはずもないのだから、我々は書いたことと言つたことについて取消しをだす必要は、もとより認めていないのである。たゞ「自分の指導を受けた学生によろしく」とあるべきのを、「自分の指導を受けた先生によろしく」と校正が誤つていただけはぜひ取り消しておきたい。こんな間違まちがひの起るのもまた校正掛を忙殺ぼうさつする今度の戦争の罪かもしれない。

(大正三・八・一三)

日本文学電子図書館

戦争からきた行き違い

著 者 夏目漱石

制作者 宮澤一郎

底 本 「漱石全集 第11巻」角川書店
昭和42年7月30日 7版発行



日本文学電子図書館